

飛 驒 地 域 の 概 要

飛驒地域は、高山市・飛驒市・下呂市・白川村の３市１村で構成され、岐阜県の総面積の約４割（旧飛驒国の全域に旧美濃国の一部を加えた区域）を占める広大な地域です。
飛驒県事務所は、この飛驒地域における県行政の窓口として、県行政の情報発信を行うとともに、３市１村や県民の皆様と県行政の橋渡しの役割を担っています。

地勢・自然・環境

飛驒地域は、岐阜県の総面積の約４割を占め、そのうち、約９２％を森林が占めています。
東は、槍ヶ岳・穂高連峰、乗鞍岳などの山々が連なる北アルプス（飛驒山脈）や御嶽山が長野県や富山県との県境を、西は、白山が石川県・福井県との県境をなし、標高差約３,０００メートルの起伏に富んだ地形を形成しています。この中には、５つの活火山が存在しています。中央部は、太平洋と日本海の分水嶺（中央分水界）が通る源流域となっており、この地域に水源を発する４つの河川が太平洋・日本海へと流れています。
高山の年平均気温は １１.４℃で、８月には ２４.４℃となる一方、１月には－１.２℃、最深積雪の平均は ５５ｃｍ と、四季の変化が大きく、気象条件の厳しい地域です。
こうした地理・気象条件のもと、多くの優れた自然景観が形成され、その多くが、中部山岳・白山国立公園をはじめ、国定・県立の自然公園に指定されています。また、古くからの火山活動の恵みともいえる温泉が多く湧出し、全国屈指の温泉地ともなっています。
こうした豊かな自然環境の保全・活用のほか、この地域でも例外なく頻発する自然災害に対する防災対応力の強化、快適な生活環境の確保などが課題となっています。

人口・高齢化

森林が大半を占める飛驒地域では、居住可能な場所が、２つの盆地（高山盆地、古川・国府盆地）や河川に沿って所在する段丘地などの限られた区域に限定されています。
令和２年国勢調査では、飛驒地域の人口は １３８,８９６ 人、高齢化率は ３６.０８％となっており、県内全体の動向からみても、早いペースで人口減少や高齢化が進行しています。
少子化対策、福祉サービスの確保・充実、働き手や地域の担い手の確保などが大きな課題となっています。

【飛驒地域の人口・世帯数（令和２年国勢調査）】

市村名	人 口 (人)	世帯数 (戸)
高山市	84,419	32,634
飛驒市	22,538	8,174
下呂市	30,428	11,656
白川村	1,511	572
飛驒地域計	138,896	53,036
県内計	1,978,742	779,029



地域の特徴

面積 4,117.99 km² (県内総面積の約４割)
標高 <最高> 3,190m (奥穂高岳) <最低> 230m
人口 138,896 人 (令和２年国勢調査)
うち就業人口 第１次産業 6,848 人、第２次産業 19,501 人、第３次産業 50,039 人
伝統工芸品 (国指定) 飛驒春慶、一位一刀彫
農畜産物 飛驒牛、トマト、ハウレンソウ、リンゴ、モモ など
温泉 下呂温泉、飛驒高山温泉、奥飛驒温泉郷、平瀬温泉、小坂温泉郷 など

飛驒県事務所の主な取組

飛驒県事務所は、飛驒地域の課題に即して県政を進めるため、次のような取組を行っています。

【振興・防災】

- 市村による地域づくりの支援
- 防災・危機管理
- 観光誘客プロモーション
- 産業振興（事業所からの情報収集）
- 社会教育・家庭教育
- 消費者相談・消費者教育
- 選挙・政治資金

など

【環境】

- 環境保全対策
- 廃棄物の適正処理の推進
- 自然公園（中部山岳国立公園など）の活用

など

【福祉】

- 福祉施設への指導・支援（サービス提供体制の確保、人材確保支援等）

など

観光・文化・産業

飛驒地域には、飛驒高山の古い町並み、白川郷合掌集落、飛驒古川の瀬戸川と白壁土蔵街、下呂温泉や奥飛驒温泉郷といった多くの観光地が所在しています。新型コロナウイルス感染症の世界的な流行の直前となる令和元年の飛驒地域への観光入込客数は約 685 万人で、そのうちの宿泊客が約 359 万人と約半数を占めています。
文化資産も数多く所在しており、白川郷合掌集落が世界文化遺産（ユネスコ）に、「高山祭の屋台行事」「古川祭の起こし太鼓・屋台行事」が無形文化遺産（ユネスコ）にそれぞれ登録されています。また、古来、「飛驒の匠」と呼ばれる名工を輩出した土地として知られ、飛驒の匠の手になる木造建造物などの多くの文化財が今に伝わっています。
主要産業は、地域の基幹産業である観光業のほか、医薬品を中心とした化学工業や「飛驒の家具」ブランドに代表される木製家具の製造などで、製造品出荷額は約 2,670 億円（令和３年経済センサス活動調査）となっています。
長期にわたった新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、特に観光業を中心として、地域経済は大きな打撃を受けましたが、訪日外国人観光客を中心とする観光需要の急激な回復への対応や深刻化する労働力不足への対応などが課題となっています。
また、目下、米国による関税措置や物価の高騰といった経済情勢が、地域の経済に影響を及ぼすことが懸念されています。迅速・的確な影響の緩和策の立案に繋げるため、事業所等の動向の把握に努める必要があります。

交通・輸送

飛驒地域の地域経済や住民生活を支える交通の基盤として、地域を南北に貫く唯一の鉄道であるＪＲ高山本線や、東海北陸自動車道、国道４１号、１５６号、１５８号などの幹線道路が整備され、飛驒地域と隣接地域の交通・輸送の大動脈となっています。
また、現在、中部縦貫自動車道やリニア中央新幹線岐阜県駅（仮称）へのアクセス道路となる予定の濃飛横断自動車道の建設が続いています（いずれも一部供用済）。
こうした交通網を通じて、高山市中心部から、岐阜市、富山市、金沢市、松本市といった近隣都市には、概ね２時間程度でアクセスすることが可能となっています。
加えて、建設工事が大詰めを迎えている中部縦貫自動車道福井県区間が開通すると、福井県方面へのアクセスが大幅に向上する見込みです。